

介護記録の入力作業
アプリ試作負担軽減

見心園・ミナミ八戸工場

階上町の特別養護老人ホ

ーム見心園(坂本憲子園長)

は、介護職員の負担軽減のため、プリント基板製造・組み立ての「ミナミ」(長野県飯田市)の八戸工場(八戸市)と連携し、ソフトウェア開発に取り組んでいる。試作品の説明会が21日、見心園で行われ、同社の社



介護アプリを入れたスマホの操作方法を職員(両端)に説明するミナミ社員

員7人が介護職員にスマートフォンフォンアプリの操作方法などを指導した。

説明会に先立ち、同社の松下武志専務取締役工場長は「介護現場には紙ベースの手書きの実務が非常に多いと知り、私たちが製造工場内で取り組んでいるペーパーレスの技術で貢献できないかと検討してきた」と経緯を説明した。

この後、社員が介護職員に付き添い、体温や食事など利用者のデータ入力や介護日誌などの操作方法を説明。職員はその様子を動画で記録するなど熱心に学んだ。

今回のソフト開発は、ミナミの提案を八戸地域高度技術振興センターが仲介し実現した。見心園の坂本園長は「記録入力は切実に困っていた。手書きは職員の負担が大きく、ケアマネジャーの手間も大変だった。ソフトを使って良いものにし、他施設にも広がることを期待したい」と話した。

(三好陽介)